

【基礎分野】

授業科目名	心理学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	人間の行動や態度についての科学的理解を基にして、日常の関わりの中での人物の行為について、人間の心理が行動にどう影響を及ぼすかを理解できる。 また、心理学を通して、看護の現場での人間理解について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の心理や行動の基礎となる原理や成長発達段階についての科学的理解を学ぶ。 2. 社会生活の中で自己と他者の共通性・個別性を知り、人間の心理が行動にどう影響を及ぼすかを理解できる。 3. 心理学的な視点からの人間理解と、看護との関係が理解できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	心理学とは	講義	
2	感覚と知覚	講義	
3	記憶と学習	講義	
4	言語と思考	講義	
5	社会的認知	講義	
6	発達 (1) 乳児期・幼児期	講義	
7	発達 (2) 児童期・青年期・成人期・老年期	講義	
8	対人関係	講義	
9	集団と個人 (1)	講義	
10	集団と個人 (2)	講義	
11	社会と人間	講義	
12	ストレス (1) 仕組み	講義	
13	ストレス (2) コーピング	講義	
14	心の支援 (1) 臨床心理学の理論	講義	
15	心の支援 (2) カウンセリング、医療者としての関わり	講義	
<p>(主に PowerPoint を使用し授業を行う。映像資料の鑑賞や簡単な実験の体験も含まれる。)</p>			
教科書			
講師資料			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 60 点、平常点 40 点 (平常点は宿題、小テスト、感想等の提出物で授業参加を評価する) を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	教育学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	人間形成に必要な教育の意義と教育方法を理解できる。 教育学を学習することで、専門職業人として主体的に学ぶ姿勢を持つと共に、患者教育・指導の基礎となる能力を習得する。		
到達目標	人間形成に必要な教育の意義と教育方法を理解できる。		
回数	授業内容	講義方法	
1	ガイダンス 教育とは何かを考える	講義	
2	日本の世界の教育	講義	
3	ジェンダーと教育	講義	
4	貧困と教育	講義	
5	「学校」から考える教育の諸問題 (1) (映画)	講義	
6	「学校」から考える教育の諸問題 (2) (映画)	講義	
7	逸脱行動 (非行・いじめ)	講義	
8~15	学生発表 課題は講師が決定する	アクティブラーニング	
教科書 講師資料			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験 60 点、発表とレポート 20 点、平常点 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	論理学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	論理的な表現方法について学習することで、また実際に文章を書くことで、物事を論理的にとられるための思考を養う。 これらを学ぶことで、看護における問題解決能力やコミュニケーション能力、研究活動の基礎となる能力を養う。		
到達目標	物事を論理的にとらえるための思考や方法について学び、論理的に表現できる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	論理学とは何か（論理学の重要性）	講義	
2	読む練習（1、メッセージとは何か）	講義	
3	読む練習（2）	講義	
4	接続詞の練習（順接）	講義	
5	接続詞の練習（逆接）	講義	
6	メッセージの作り方（根拠の重要性）	講義	
7	レポート作成（第1 回目）	7. DVD 鑑賞、 およびレポート提出	
8	レポート返却	8. レポート返却 目標点以下は再提出	
9	要約の練習（1）	講義	
10	要約の練習（2）	講義	
11	思考の整理術（MECE とSo What?/Why So?）	講義	
12	論証とは何か（根拠の重要性その2）	講義	
13	論証とは何か（演繹（deduction）と帰納（induction））	14. DVD 鑑賞、 およびレポート提出	
14	レポート作成（第2 回目）		
15	レポート返却／講義全体のまとめ	15. レポート返却 目標点以下は再提出	
教科書			
講師資料			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験70点、レポート30点を合わせて100点満点とし、60点以上で合格とする。			

授業科目名	情報科学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	2 年次後期
目的	医療・看護において情報の伝達・共有・蓄積などの情報の活用は電子媒体を中心に行われるようになり、医療・看護の質の向上と効率化を図る上で情報の管理、利用について正しく理解する必要がある。このことから情報社会に対応できる能力を養い、科学的思考のもとに看護を実践するために、情報科学の基礎知識・技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療および看護における情報システムについて理解できる。 2. 情報を取り扱う時の倫理的側面について理解できる。 3. 基礎的な文章処理と統計処理ができる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	オリエンテーション、医療システム	講義・タイピング	
2	医療システム	講義・タイピング	
3	情報倫理	講義・タイピング	
4	パソコン・インターネット、Word：文字情報の整理（1）	講義・タイピング	
5	Word：文字情報の整理（2）	講義・タイピング	
6	Word：文字情報の整理（3）	講義・タイピング	
7	Word：コマンドの説明（1）	講義・タイピング	
8	Word：コマンドの説明（2）	講義・タイピング	
9	Excel による統計解析（1）	講義・タイピング	
10	Excel による統計解析（2）	講義・タイピング	
11	Excel：コマンドの説明（1）	講義・タイピング	
12	Excel：コマンドの説明（2）	講義・タイピング	
13	PowerPoint の基礎：情報の発表とコミュニケーション（1）	タイピング	
14	PowerPoint の基礎：情報の発表とコミュニケーション（2）	タイピング	
15	PowerPoint・総括	タイピング	
教科書			
系統看護学講座 別巻 看護情報学			
評価方法・評価基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 課題提出は 8 回で合計 100 点満点とし、60 点満点を合格とする。 			

授業科目名	生物学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	1 年次前期
目的	生物学的な視点から人間を理解できることで、人間の身体の仕組みや疾病・治療を理解できるための基礎的知識を習得する。		
到達目標	生命の共通原理を学び、生物学的な人間の特性を理解できる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	生物学の基礎 ～ 生物とは、生命の出現、生物の分類 ～	講義	
2	細胞（単位膜、オルガネラの説明）	講義	
3	生物を構成する物質（原子、分子、PH、糖質、タンパク、核酸）	講義	
4	代謝（栄養素、消化・代謝、ATP、酵素、糖・脂質、核酸・アミノ酸の代謝）	講義	
5	遺伝と DNA（メンデル遺伝、染色体の構造、DNA 複製、突然変異）	講義	
6	遺伝情報の発現／細胞の増殖と死（細胞周期、減数分裂、アポトーシス等）	講義	
7	生殖、発達、分化（生殖細胞、受精・発生、ヒトの発生の受精）	講義	
8	生殖、発達、分化（ヒトの発生～出産）	講義	
教科書			
医療・看護系のための生物学			
評価方法・評価基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	社会学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	社会の構造・機能を学び、社会的存在としての人間を理解する。		
到達目標	1. 社会の構造・機能を学び、社会的存在よしての人間を理解できる。 2. 社会構造の最小単位である家族機能について理解できる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	社会学とはどのような特徴をもつか - 社会を理解できる -	講義	
2	現代社会の特徴を知る (1) - 「格者社会」という言葉から -	講義	
3	現代社会の特徴を知る (2) - インターネットがもたらすものから -	講義	
4	社会の制度としての家族の危機 (1) - 少子化 -	講義	
5	社会の制度としての家族の危機 (2) - 家族機能の低下 -	講義	
6	近代家族の問題 - 孤立する家族と子育ての困難 -	講義	
7	これからの社会における家族	講義、小レポート	
8	現代社会における職業の意味	講義	
9	現代社会における組織とは	講義	
10	日本的雇用システムの成立と今日的課題	講義	
11	日本的雇用システムのゆらぎと働き方	講義、小レポート	
12	学校と学歴	講義	
13	学校教育の機能	講義、小レポート	
14	日本社会の特徴を考える (1)	講義	
15	日本社会の特徴を考える (2)	講義、小レポート	
教科書			
本田由紀編『現代社会論』			
評価方法・評価基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	生活科学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	日常生活におけるさまざまな問題には人間と環境との関係が深く、相互に関係している。人間の生活を科学的な視点で分析し、人間が健康で快適・安全な生活を送れるように援助するための基礎的知識を習得する。		
到達目標	人間の環境と相互作用と日常生活における生活上の問題点と対策について理解できる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	ガイダンス、循環型社会の快適な居住環境	講義	
2	少子高齢化と人口構造の変容	講義	
3	家族の変化と家族にかかわる今日の問題	講義	
4	高齢者介護の問題	講義	
5	加齢に伴う身体的特性（1）	講義	
6	加齢に伴う身体的特性（2）	講義	
7	高齢社会と住環境	講義	
8	高齢者に配慮した住宅計画	講義	
9	災害に備える住まいと暮らし	講義	
10	健康的な住まい、人と住まいの健康と室内環境	講義	
11	睡眠環境	講義	
12	食生活と環境（1）	講義	
13	食生活と環境（2）	講義	
14	衣生活と環境	講義	
15	バリアフリー／ユニバーサルデザイン	演習	
		*適宜、GW が入る	
教科書			
講師資料			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験 80 点、レポート 20 点を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	哲学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	<p>生命科学や医療のめざましい進歩は人間の存在にかかわる諸価値への根本的な反省を迫るものであり、哲学を学ぶことで合理的な思考や自らの価値観を反省する態度を習得する。</p> <p>近年の生命科学や医療技術の進歩によって、保健医療の現場には新たな倫理的ジレンマが生じ、看護職にも倫理的根拠に基づいた判断が求められている。哲学的要素の応用として、生命倫理学の諸問題に関する理解を深め、医療従事者として必要とされる倫理観を養う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ものごとを根本から問い直す姿勢と根拠に基づく合理的な思考を身につけ、自己の価値観の形成と多様な価値観を尊重する態度を養う。 2. 生命倫理学の諸問題に関する理解を深める。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	生命倫理学とは何か（1）	講義	
2	生命倫理学とは何か（2）	講義	
3	健康・病気・医療	講義	
4	生殖技術	講義	
5	移植医療	講義	
6	科学的医学の論理と倫理	講義	
7	人工妊娠中絶	講義	
8	安楽死	講義	
9	人間とは何か	講義	
10	緩和ケア	講義	
11	遺伝子技術	講義	
12	インフォームド・コンセント	講義	
13	今後の医療と生命倫理学（1）	講義	
14	今後の医療と生命倫理学（2）	講義	
15	総括：「生きる」とは何か	講義	
教科書			
講師資料			
評価方法・評価基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	人間関係論		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	臨床心理士・公認心理士・カウンセラー
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	社会心理の観点から、人間の個人および集団における関係性や行動への影響を学び、人間関係を円滑に保つ必要性和方法を理解する。また、これらを学ぶことで、援助的人間関係を築く、またチーム医療においてリーダーシップ・メンバーシップを発揮するための基礎的能力を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係性や行動への影響を学び、人間関係を円滑に保つ必要性和方法について理解できる。 2. 人間の個人および集団におけるカウンセリングの理論・技法について学び、援助的人間関係を築くための方法を理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	オリエンテーション 自分を知る①20 答法 (実施・解説)		講義
2	自分を知る②エゴグラム (実施・解説)		講義
3	自分を知る③ 振り返り		講義
4	人間関係とコミュニケーション①		講義
5	人間関係とコミュニケーション② (エクササイズ)		講義・演習
6	コミュニケーション技法 (1)		講義・演習
7	コミュニケーション技法 (2)		講義・演習
8	社会と個人 (対人援助行動)		講義・演習
9	集団における人間関係①		講義・演習
10	集団における人間関係②		講義・演習
11	カウンセリングと心理療法①		講義・演習
12	カウンセリングと心理療法②		講義・演習
13	代表的な心理療法 (1) 来談者中心療法		講義
14	代表的な心理療法 (2) 精神分析・感情転移・防衛機制		講義
15	代表的な心理療法 (3) 行動療法・認知行動療法		講義
教科書 講師資料			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	英語 I		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	看護分野における国際協力など看護を国際的視野でとらえ広く社会に貢献できる能力が求められていることから、医療および看護用語を理解する。		
到達目標	医療・看護用語について理解できる。		
回数	授業内容	授業方法	
1	授業の目的及び進め方、提出物、小テスト、評価方法などのガイダンス	講義	
2	Chapter 1 What is a nurse	講義 音読	
3	Chapter 1 の復習・ Chapter 2 The history of nursing	講義 音読 会話	
4	Chapter 2 の復習・ Chapter 3 Patient-Nurse relationship	講義 音読 会話	
5	Chapter 3 の復習・ Chapter 4. Communication with a patient	講義 音読 会話	
6	Chapter4 の復習・ Chapter 5 Intercultural communication with a patient	講義 音読 会話	
7	Chapter 5 及びここまでの復習・ 質疑応答	講義 音読 会話	
8	Chapter 6 Doctor-Nurse relationship	講義 音読	
9	Chapter 6 の復習・ Chapter 7 Related professionals	講義 音読 会話	
10	Chapter 7 の復習・ Chapter 8 Nurses and the hospital	講義 音読 会話	
11	Chapter 8 の復習・ Chapter 9 Nurses and the community	講義 音読 会話	
12	Chapter 9 の復習・ Chapter 10 Nursing in the future	講義 音読 会話	
13	Chapter 10 復習・ 全般的な質疑応答	講義 音読 会話	
14	模擬テスト		
15	答え合わせ		
教科書			
「English for Nursing Students」			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 小テスト・課題提出を平常点とし 20 点満点で算出し、試験の 80%満点と合算し 60 点を合格とする。			

授業科目名	英語Ⅱ		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	2 年次前期
目的	看護分野における国際協力など看護を国際的視野でとらえ広く社会に貢献できる能力が求められていることから、臨床看護に必要な英会話を身につける。		
到達目標	臨床看護に必要な基礎的な英会話ができる。		
回数	授業内容	授業方法	
1.	Meeting colleagues (Unit 1)	講義・ペアワーク	
2.	Nursing Assessment (Unit2)	講義・ペアワーク	
3.	The patient ward (Unit 3)	講義・ペアワーク	
4.	Food and measurements (Unit 4)	講義	
5.	The body and movement (Unit 5) ➤ REVIEW (Units 1-5) ➤ TEST (30-minute short quiz and 15-minute checking time of answers)	講義・ペアワーク	
6.	Medication (Unit 6)	講義・ペアワーク	
7.	The hospital team (Unit 7)	講義・ペアワーク	
8.	Recovery and assessing the elderly (Unit 8) Review (Unit6-8)	講義	
教科書			
NURSING① Student's Book			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	健康スポーツ科学		
担当講師			
単位・時間数	2 単位 45 時間	開講年次	1 年次前期
目的	身体機能と運動・エネルギーのメカニズムを学び、運動が心身や健康に与える影響を学ぶ。実際の身体活動を通して、運動が心身に与える影響を実感し、自身の健康の保持・増進についての考えを深めるとともに、集団活動を通して主体性・協調性を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体機能と運動・エネルギーのメカニズムを学び。運動が心身や健康に与える影響が理解できる。 2. 実際の身体活動を通して、運動が心身に与える影響を実感し、自身に健康の保持・増進について考えを深めることができる。 3. 集団活動を通して主体性・協調性を発揮できる。 		
回数	授業内容	授業方法	
1	オリエンテーション、健康スポーツ科学とは	講義・実技	
2～5	実技（バレーボール）	実技	
6～9	実技（バドミントン）	実技	
10～14	実技（バスケット）	実技	
15	実技（二重飛び）	実技	
16～19	ストレッチ、筋力トレーニング（筋肉に筋肉トレーニングについて）	講義・実技	
20～23	体力測定	実技	
教科書 なし			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 実技試験、レポート点、平常点で 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 (平常点には、授業中に実施する実技テストと授業への積極的参加度も評価に含まれる) 			